

果樹農家のみなさまへ、時季ごとの耳より情報をお届けします



予防薬と治療薬



- 農薬（特に殺菌剤）には予防剤と治療剤があります。
- 防除は**予防薬**を用いて病害が発生する前の**予防的散布が好ましい**とされています。
- 一方、べと病などは気象条件により通常散布だけでは発生が抑えきれない場合があり、**治療剤**を使用します。
- 治療剤は**殺菌効果が高い**のですが予防剤と違って対象病原菌が限られ、耐性菌が出現しやすい等の注意点があります（表）。

	予防剤	治療剤
防除効果	葉面についた胞子の発芽抑制。菌糸の葉内への進入阻止	葉内に侵入した菌糸や吸気作用し、死滅化。分生胞子の形成阻害
防除する病原菌の範囲	病原菌のさまざまな部位や酵素に幅広く作用し、防除対象は広い	通常は狭い。特定の病原菌のピンポイント部位に作用する
耐性菌発生リスク	低い	高い
適正な使用タイミング	病害が発生する前の定期的な予防散布、発生のごく初期における治療	病害の発生後に治療的に使用
代表的な農薬	ジマンダイセン、オーソサイド、ボルドー液、ダコニール等	ベトファイター、アミスター、ジャストフィットフロアブル等

したがって、定期的な散布は予防剤を用い、治療剤は**万が一の場合の治療散布用**とするのが賢明です。



今春の天気予報と畑の管理



- 今年の冬は**やや寒い**日が続きましたが、3月はどうなるのでしょうか？
- 気象庁によると

表 向こう1か月の天候の見通し（関東甲信越地方、2月26日～3月25日）

平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
低 20 並 40 高 40%	少 40 並 30 多 30%	少 30 並 30 多 40%
平年並か高い 見込み	ほぼ平年並 の見込み	ほぼ平年並 の見込み

- 向こう1か月は、寒気の影響を受けにくく、**気温は平年並か高い**でしょう。**降水量と日照時間もほぼ平年並**で推移するようです。
- 今後は気象予報を見ながら、発芽前の3月中旬から4月上旬の間の風の少なく天気が良好な日に、石灰硫黄合剤やベンレート等の**薬剤防除を徹底**しましょう。また、感染源となる果梗の切り残し、まきひげの除去等の**棚面の衛生管理**も行って下さい。
- やや乾燥気味に経過していますので、園土壌の状態を見ながら1週間に1時間程度の**スプリンクラー灌水**を定期的に行ない、**発芽を良好**にしましょう。